

**協議題** 本町におけるこれからの学校教育のあり方について

—少子化が進む中、今後どのような子どもを育てていくべきか—

### **協議題設定の理由**

令和5年6月に閣議決定された教育振興基本計画によると、これからの子どもたちの教育は「これからを見据えた持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」などが重要であると示されている。今年度策定される栃木県教育振興基本計画（とちぎ教育ビジョン2030）では、今後の教育の方向性として「新たな価値を創造する力を育むこと」「ふるさとの未来を担う力を育むこと」などが示されている。

今後更に少子化が進む中で国や県が目指す教育を実現するために、本町としてどのような教育を行っていくべきかを考え、その達成のために適正な配置計画を策定することが大変重要であると考えた。

### **協議の視点**

- 1 少子化が進む中でどのような子どもになってほしいと思うか
- 2 学校教育はどうあるべきか

### **第2回検討委員会が出された意見**

- ・町では12年間の教育課程の中で、ふるさと教育が行われている。
- ・学校生活を通して自分が住んでいる地域に誇りを持ってほしい。
- ・学校と地域の交流が必要である。
- ・将来、町に住み続けるような子どもになってほしい。
- ・地域で子どもを育てることが必要である。
- ・町に憧れを持ってもらいたい。
- ・挨拶ができる子になってほしい。
- ・思いやりのある子になってほしい。